

変わる景色を堪能しながら
大自然とふれあう醍醐味。

シリーズ

豊かにくらそう。

年齢や体力に合わせて
さまざまな楽しみ方ができる山登りやハイキング。
街の暮らしでは味わえない
大自然との語らいや触れ合いが
今、改めて多くの人々を魅了する。

第10回

竹内 宏彰さん
Hiroaki Takeuchi

牛久市在住 | つくばハイキングクラブ会員



竹内 宏彰(たけうち ひろあき) 都内の設計会社で、主にマンションなどの大型集合住宅の設計を行っている。趣味は、カメラ・旅行。以前は海外へ旅することが多かったが、ハイキングを楽しむようになり、国内にも目を向けるきっかけになったという。一級建築士。昭和45年生まれ。牛久市在住。



クラブに入って、山歩きの楽しみが深くなりました。

もともと森を歩くのは好きで、日光など身近な場所へ出向いて散策を楽しんだりしていました。でも、山歩きの知識とか、技術的なことをもっと知りたいと考えて、つくばハイキングクラブに入会したんです。クラブの会員は、20代から60代という幅広い年代の男女で、山岳部経験者から私のようなビギナーまでキャリアはさまざま。経験や体力に合わせて、いろいろな山行を毎週のように企画しているので、行きたいと思う企画に参加できるんです。

山を歩いて行くと、視界に入る景色がどんどん変わっていくんですね。海が見えて開放的な道中が続いたかと思うと、木々がうっそうと繁る奥深い山道に入っていたりとか。伊豆平島の山に登った時の山頂から霞んだ駿河湾の幻想的な景色は感動しました。花の季節にまた登りたいです。改めて山を登るとするのは奥が深いなあ、と思います。

今は、平均して1カ月に1回ぐらいの割合で山に出かけているんです。仕事も忙しいですからね。でも、正直、こんなに夢中に

白いで、ああ森に近づいてきたなとわかるんです。いつも大自然を感じながら、山と関わっていききたい。

なると思っていました。十数名のパーティで歩くんですけど、みんなそれぞれに山との向き合い方があって、楽しみ方も色々なのではないのでしょうか。私は、カメラが好きで写真を撮りながらの登山なので、いつも最後尾を歩いていますね。最近ハマって、撮影するのは、『木』です。季節や場所によって、そこに思っている木が違ったり、表情も付まいる魅力も千差万別。その写真の数も相当増えました。

安全で楽しい山行を企画できるようにするのが、今の目標です。

クラブに入会したのは、山歩きの知識と技術を学びたいということもあったし、また、地元の人々ともつと関わりを持ちたいという気持ちもあったんです。牛久に住んでいます。都内へ通勤しているので地元との接点がほとんどなくなっていたんです。

年齢も職業もさまざまな人と、山歩きという自然との関わりを通じて知り合えるというのは、得るものも大きいんです。多彩な趣味をもってる人もいるし、仕事だけでは知り得ない幅広い人間関係ができました。魅力のある人たちがたくさんいますね。親しくなった方と釣りに行ったり、個人的に山へ行ったり。また、みんなで蕎麦打ちをしたりと、いろいろなイベントを通じて、地元の人々との関わりが深くなっていくことも嬉しいですね。

クラブでは、企画を担当する人が8人ほどいて、山行の企画を毎週考えてくれているのですが、いずれは自分で企画ができるようになりますね。季節や天候によっても装備が違ったり、いろいろな状況に合わせて迂回路も確認しておかなければならないし、あるいは中止するということも含めて、正しい判断ができなくてはなりません。今年も、ますます山に夢中になりそうな気がしています。



竹内さんが最初に参加した安達太良山登山にて(左端が竹内さん)

**つくばハイキングクラブ
会員募集**
つくばハイキングクラブに興味がもたれた方は、会のHPへお申し込み下さい。それから、山歩きの楽しさは一体験してみることが一番です。体験参加も可能ですので、是非、お問い合わせ下さい。
つくばハイキングクラブHP
<http://thcyama.org/>



いつも軽装を心掛けているというが、コンパクトでも高画質を誇る愛用のデジタルカメラは常に持参する。森や木の写真を撮影しながら山を歩くのが竹内さん流だ。(風景写真は竹内さん撮影)